

# うらおそい歴史新聞



第20号  
平成27年  
3月

## てだこウオーク2015 が開催されました！

7千人以上が参加する県内最大規模ウオークイベント『てだこウオーク2015』（主催・同大会実行委員会・共催・沖縄タイムス社）が2月7日・8日の両日で行われました。3キロから45キロの5つのコースが設定され、土・日のツアーデーマーチとして開催されました。市内外からの参加者は、キャンピングカーコース、歴史めぐりコースなどを歩きました。沿道では市内各自治会による、飲料水や黒糖などの「おもてなし」があり、より和やかなムードでウオーキングを楽しんでいました。

うらおそい歴史ガイド友の会は、『てだこウオーク2015』の関連イベントとして組踊の創始者である「玉城朝薫の墓」、第二尚氏王統七代の尚寧王の命により造られた、「浦添城の前の碑」（首里から浦添グスクまでの道路竣工記念碑）、「仲間あさと原の印部土手」

などを案内しました。

ようどれ館前広場では、テントが張られ、お茶やお菓子などが振る舞われて、ウオーカーを励ましていました（栗森）。



仲間あさと原の印部土手のハル石

印部土手（しるべどて）は、検知・徴税のための土地測量で使われた基準点で、その中央部に立てられた石は「ハル石」と呼ばれました。

## 城間・屋富祖の地域散策を実施しました！

2月22日（日）に、うらおそい歴史ガイド友の会主催で、毎年恒例の地域の文化財をあぐるイベント『地域散策』を今年も城間・屋富祖地区で実施しました。当日は小雨がぱらつく中での出発でした。68名の参加の下「おもろさうし」にも謡われた由緒ある村である城間・屋

富祖の集落を歴史ガイドが説明をしながら、参加者とともに歩きました。

城間はむかし城間村と又吉村が、屋富祖は屋富祖村と親富祖村が合併してできた村であるといわれ、多くの御嶽や殿があつたであろう地域でしたが、戦後軍事基地への接收および開発によって地形が変わり、当時の面影は失われてしまいました。とくに城間村は、尚瀬王が静養をしたところであり、又冊封使が来琉した際には薩摩の役人が隠れた地域でもあるとのエピソードも残されています。

参加者の皆さんは歴史ガイドの解説を聞きながら、屋富祖の御願所のガジュマル、城間と屋富祖にある「おもろの碑」、軽便鉄道の線路（パイプライン）等を見ました（古波蔵）。



屋富祖の御願所のガジュマル

約500㎡の拝所には樹齢100年を越す大きなガジュマルがあります。浦添市の天然記念物に指定されています。

## 浦添グスク・ようどれ館

【開館時間】  
午前9時～午後5時

【入館料】

大人（高校生以上） 100円  
小人（小中学生） 50円

※市内小・中学生は無料

【休館日】月曜日・年末年始

【住所】〒901-2103

沖縄県浦添市仲間2-53-1

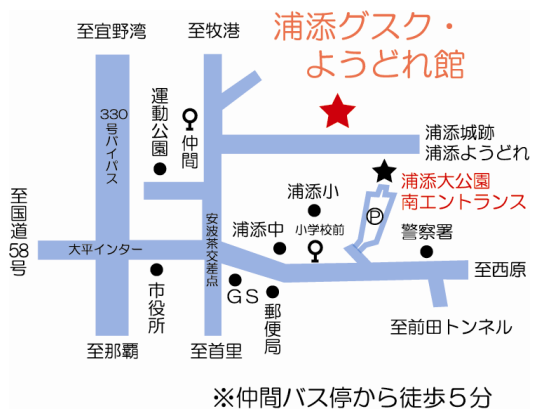
【電話】098-874-9345

【アクセス】

琉球バス交通 牧港線（55番）  
仲間バス停から徒歩5分

※浦添グスク・ようどれ館を中心に浦添の史跡・文化財の案内を致します（有料）。時間・コースも相談できます。お気軽にお問い合わせ下さい。

※浦添大公園の南エントランスにグスクや市内文化財を紹介する展示コーナーもありますので、あわせてご覧ください（ガイドの解説あり）。



※仲間バス停から徒歩5分